やさしい魔法使い

notomo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
やさしい魔法使い

【Ｎコード】
Ｎ６８３３Ｏ

【作者名】
ｎｏｔｏｍｏ

【あらすじ】
ちいいさい女の子が、恐れていた魔法使い。でも、本当に優しかったのは・・・
信じる力、女の子の純粋な心が、読者様の心に届くといいなと思います。

「優しい魔法使い」

みなさん、「ヘンゼルとグレーテル」って、知ってるかな？お菓子のお家に迷い込んだ双子の兄妹が、その家に住む魔法使いに食べられそうになりました。しかし、二人で力を合わせて、魔法使いをやっつけました。めでたしめでたし。と言うお話です。今回登場する「魔法使い」も、やっつけられてしまうのでしょうか？

ちよちゃんは五歳の女の子。ママと二人で暮らしています。でも、ママの「お友達」がきているとき、ちよちゃんはお外で待っているお約束なのです。そのお約束を守らないと、魔法使いに食べられてしまうのです。ちよちゃんも、少しの間通った保育園で、ヘンゼルとグレーテルのお話を聞いていました。そこに出てきた「魔法使い」は、確か女の人でしたが、ちよちゃんのお家には、ママには優しいけど、ちよちゃんをみると、暴れて、ちよちゃんを殴ったり蹴ったりする男の「魔法使い」がやってくるのです。

ちよちゃんは、その「魔法使い」が恐ろしくてたまりませんでした。一度ひどい目にあってからは、雪が降って凍えそうな夜も、お月様がかくれんぼして、飲み込まれそうな真っ暗闇の夜も、お約束をしっかり守っていました。

アパートの電気がつくと、ママの合図です。ちよちゃんは、大急ぎで、お家に入ります。すると、普段は滅多に食べられない、チョコレートや、キャンデーが、もらえるのです。「魔法使い」が、持ってきてくれるのだそうです。ママは、言います。

「ちよは、いい子だから、お菓子がもらえるの。でも、お約束を破ったら、わかってるわね？」

ちよちゃんは、黙ってこくりとうなずきました。「魔法使い」が持ってくるお菓子は、なんだか、すごく甘くて、ちよちゃんを溶かしてしまいそうなほどでした。

「おいしい。」
と、ちよちゃんが笑うと、ママも笑ってくれるので、ちよちゃんもそのお菓子よりも、ママの笑顔のために、お約束を守っていました。
今年も、寒い寒い冬がやってきました。ちよちゃんにとっては、辛い季節です。お外は寒すぎて、近くの公園の滑り台の中で、合図を待っていました。震えていると、ポンとかたをたたかれました。びっくりしてふりかえると、知らないおばあさんが立っていました。真っ黒いワンピースを着ています。絵本んいでてた魔法遣いにそっくり！ちよちゃんは、
「怖い魔法使いだ！」
と思って、逃げようとしましたが、おばあさんにつかまってしまいました。その手は、とってもあたたかくって、ちよちゃんは、こわさと、今までの寒さで、気を失ってしまいました。
ちよちゃんが目覚めると、そこは、あたたかいベッドの中でした。
「目が覚めたかい？」
「ここは、お菓子のお家？」
ちよちゃんは、思わず、たずねました。
「ざーんねん。ここは、ただのアパートさ。でも、お外よりあったかいでしょう。」
ちよちゃんは、こくりとうなずきました。おばあさんは、いつもちよちゃんをみかけていたのですが、なかなか声がかけられなかったのです。でも、この夜の寒さの中、ほうっておくことができず、とうとうちよちゃんに声をかけたのでした。
おばあさんは、優しい笑顔で、ちよちゃんに楽しいお話をたくさんしてくれました。そして、
「こんなものしかないけど。」
といって、手作りのべっこう飴を、くれました。やさしい甘さです。ちよちゃんは、そのお菓子を食べると、おなかの中が、ぽかぽかになったような感じでした。自分のおうちにやってくる「魔法使

い」のお菓子とは、まったくちがうことが、小さいちよちゃんにもわかりました。
楽しい時間でしたので、ちよちゃんは、ママの合図のことを忘れてしまっていました。
「おばあさん、ちよのことすき？ちよ、またここにきたいよ。」
おばあさんは、
「もちろんだよ、ゆびきりしよう。また、いっしょにたのしきおしゃべりしましょう。」
ちよちゃんとおばあさんは、ゆびきりげんまんをしました。そして、ちよちゃんは、おばあさんの腕の中で、すやすや眠ってしまったのです。
翌朝目覚めたちよちゃんは、ママのことを思い出しました。
「ママ、さみしがってるよ、泣いちゃって　るかもしれない。」
やっとうちに到着です。いきせききって、お家のチャイムをならすと、出てきたのは、なんと「　魔法使い」でした。ちよちゃんは、おそろしいのとびっくりしたので、声も出ません。
「だーれ？」
ママの声です。ちよちゃんが、
「ママ！」
と叫びましたが、
「あんた、昨日の合図みてなかったじゃないの。もう帰ってきやしないのかと思ってたのに。外に出てな。」
「魔法使い」も、恐ろしい顔で
「おめえは、いらねえんだってさ」
と、ちよちゃんの頭を、なぐりつけました。
「ママ、ちよが悪かったよ。お外に出てるね」
また、合図出してくれるでしょう？』
ちよちゃんが、泣きながらさけぶと、
「昨日帰らずにすごせたじゃないか。そこでくらしな。」
ちよちゃんは、目の前が真っ暗になりました。

「ママが、こんなこと言うわけないよ。そうだよ、ママは、ちよのことが世界で一番好きだって、言ってくれたもの。そうだ、魔法使いが、ママに言わせてるんだ。」

ちよちゃんはそう思って、目の前に立ちはだかる「魔法使い」が、よそ見をした瞬間、さっと後ろに回って、「魔法使い」を、階段からつきおとしました。酔っぱらいの「魔法使い」は、あたまから、真っ逆さまに落ちていきました。ものすごい音がしたので、ママが、パジャマ姿で、表に出てきました。

「ママ、ちよ、魔法使いやっつけたよ。魔法使いのお菓子なんて、いらないよ。もっとおいしいお菓子が・・・」

ちよちゃんは、さいごまで、ママに自分の気持ちを伝えることができませんでした。なぜなら、ママが、ちよちゃんを灰皿で殴りつけたからです。ちよちゃんは、ばったりと、たおれてしまいました。

気がついたときには、病院にいました。ちよちゃんは、「魔法使い」を、やっつけたことしか覚えていません。頭がずきずきしましたが、それより、ママが心配です。

「ママ、ママ。」

とよぶと、ママの代わりにかんごしさんがやってきて、

「しばらくママとは会えないのよ。すぐによくなるからね。」

「どうして、ちよが約束破ったからなの、もう魔法使いはいないんだよ、どうして？」

ちいさいちよちゃんには、自分が人を一人殺してしまったことも、ママが刑務所に入ったことも、わかるはずありません。

それから、ちよちゃんのけがは、すぐによくなりましたが、ちよちゃんは、さみしさのあまり、ご飯が食べられなくなってしまいました。お医者さんも、かんごしさんも困り果てています。

「ちよちゃん、いちばんすきなもの、なーに？」

かんごしさんにきかれても、しばらくは何も言わなかったちよちゃんでしたが、あるとき、あの、あたたかいお菓子を思い出しました。

「あめ・・・おばあちゃんの・・・・。」
かんごしさんは、
「おばあちゃんはどこにらっしゃるのかしら?」
と、たずねました。
「ちよのお家の近くの、公園があるアパート・・・・。「魔法使い」じゃないよ、あったかいの・・・・。」
それだけいうと、ちよちゃんは意識を失いました。頭を殴られたときの、血の固まりが、のこっていたのです。
ちよちゃんは、手術を受けましたが、なかなか意識は戻りません。
かんごしさんは、ちよちゃんのおうちの近くにあるアパートを、いっけんいっけんまわって、やっと、おばあさんをみつけることができました。
事情を聞いたおばあさんは、すぐに病院に駆けつけました。もちろん、手作りのあめも持っていきました。
病院に着くと、もともとちいさかったちよちゃんが、さらにやつれたようすで、横たわっていました。おばあさんは、ちよちゃんの手をやさしくにぎって、くりかえしました。
「また、お話しするおやくそくでしょう、ねえ、ちよちゃん。」
ちよちゃんは、うっすらと、めをあけました。
「おばあさん、おやくそく、まもってくれたのね。ちよのことが、好きなのね。」
ちいさなこえでしたが、おばあさんには、はっきり聞こえました。
「もちろん。ちよちゃんのこと、だいすきよ。ちよちゃんのだいすきなものも、持ってきたよ。」
おばあさんは、なきながら、包みを広げました。ちよちゃんは、
「あったかいあめ・・・」
といって、その包みをおばあさんにもたせてもらいました。
「ちよのことが好きな人がいるのね、あったかいね・・・・。」
それが、ちよちゃんの最後の言葉になりました。
おばあさんは、泣き崩れました。最後の力で、「お約束」を守っ

たちよちゃん。

それから、ちよちゃんは、ちいさなお墓に入りました。おばあさんは、ちよちゃんが二度と寒くないように、おなかもすかないように、暖かな毛布でお墓をくるみ、手作りのあめをお供えすることをかかしませんでした。ちよちゃんは、天国で、あたたかなぬくもりに、つつまれていることでしょう。

おわり

（後書き）

子どもたちに贈る作品と同時に、子供たちを守るべき大人の方にも読んでいただけたなら幸いです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6833o/

やさしい魔法使い

2010年11月3日14時30分発行